

今年の二月、『日本人として生きる君へ—想いのたまたま箱』（22 世紀アート）を、アマゾンの電子書籍・キンドル版で出版した。

これは、もともと二〇〇五年に、印刷、製本していたもので、これからの世界を展望しての自分なりの想いをまとめたものである。

二十一世紀がスタートして、高度情報化やグローバル化のことばかりが強調されている。「グローバルスタンダード」といって、世界、特に西欧諸国に同調することが重要視されているが、本当にそうだろうか。私は、決してそうではなく、むしろそうあってはならないと考えている。

安易な同調ではなく、日本人は日本人としての誇りと自負と個性を持ち、それらを強く主張していくべきである。日本人としてのアイデンティティーをしっかりとっていないければ、日本は世界の中で何の存在価値もなく、認知も尊敬もされないだろう。

私は、若い世代が、同調することばかりに気をとられてはいないかと危惧する。

「日本人」としての生き方とは何だろう。自分の経験、読書、聴講などを基に、折々に書き留めたメモをまとめ、日本人がどうあるべきかを考えるヒントになればと小冊子をつくった。「プリント世代」から「ネット世代」への皆さんへの提案である。

校正は言葉の守り手虹懸る

漱石の「それから」想ふ日の盛り

四十刷超へたる名著に紙魚走る